

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	41	実施計画番号	112
事務事業名	アーツ・トワダの推進 春・夏企画展の実施		
個別事業名		事業開始年度	平成20年度
担当課名	観光推進課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	十和田市現代美術館条例	関連事務事業	
背景や経緯等	ゴールデンウィーク及び夏休みの観覧者が多い時期にあわせ、全国から注目を集めることができる知名度のある作家による質の高い展覧会を春夏企画展として実施する。		
事務事業の目的	アート作品を現代美術館だけではなく商店街の店舗にも作品を展示することで、まちなか全体を美術館に見立て、展覧会を実施し、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。		
実施状況	現代美術館の常設作家による展覧会にあわせ、まちなか展示のほか、アートパフォーマンス等を実施するなど、企画展と連携したアートイベントを商店街全体で展開する。また、次年度企画展の準備を行う。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	1
	活動日数(日)	100	80	30
	人件費(千円)	7,200	5,760	1,080
正職員以外	従事者数(人)	2	2	0
	活動日数(日)	100	80	0
非常勤職員	人件費(千円)	1,480	1,184	0

【事業費の推移】

	22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)	12,024	10,088	10,000
うち一般財源	6,614	7,838	5,500
うち国県支出金	5,410	2,250	4,500
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	まちなかイベント等の実施回数の合計				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		回	4	2	2	
	活動指標名②					
成果指標	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
	成果指標名①	観覧者の合計				
		人	目標値	30,000	20,000	20,000
			実績値	41,986	19,231	
			達成度(%)	140%	96%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	41
計画No	112

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		美術館最大の事業であり、開館から5年目を迎え、リピーター確保及び継続的な情報発信のため、妥当である。		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		多くの観覧者が県内はもとより、全国からも訪れ、目標を若干下回ったが、震災の影響が残るなか健闘したといえる。質の高い展覧会を開催することで全国から注目を集めるとともに、商店街を回遊する人も多く、事業目標を達成している。		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		最小限の支出を心がけ、連携による事業を多くし、効率的な取り組みを実現している。24年度から指定管理に移行するため、より柔軟な事業運営が可能となり、専門性の高いスタッフによる質の向上が図られ、より効率性が向上することが期待される。		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		観覧料が他の美術館に比べ安価である。常設展料金との兼ね合いになるが、付加価値を付けたり、関連事業を工夫するなど、検討の余地があると考えられる。		
					現在の適性	19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

現状のまま継続

方向性の理由

開館から5年目を迎え、リピーター確保の点からも更なる充実が求められている。また、継続的な情報発信はもとより、商店街の店舗に作品を展示する手法は全国からも注目を集めており、経済波及効果も高いことから、継続していくべきと考える。

今後の具体的な取り組み方策と狙う効果

平成24年度から指定管理へ移行したが、これまでのノウハウや経験を伝えながら、民間活力を大いに導入することで効率的な運営をすすめていくとともに、専門性が高まることから企画内容の充実を図っていく。また、まちなかへの誘導についても様々なアイデアを活用し、中心市街地の活性化に寄与するとともに、経済波及効果を高めていく。